

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367
振替 東京 0158431 労金 東京 労金本店 No1154163

購読料 月額600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■ 巻頭言 ■

社会党再生のためにはケジメが重要……………2

自・社・さきがけ政権誕生で大混乱……………5

——産別大会をめぐる情勢の特徴(一)——

◇ 広島からの報告 ◇

このアクションを全国に拡大しよう……………7

青票議員が広島に勢揃い……………9

出口はアメリカン・スタイルの「リストラ」のみ?……………9

——ナポリ・サミットとヨーロッパ経済の現況——

金日成主席の急逝と朝鮮情勢……………13

読者と編集部との「対話」……………16

読者からのおたより……………17

旬刊 社会通信

NO.578

一九九四年七月二二日発行

一九九四年七月二二日発行

(毎月一日・十一日・二十一日三回発行)

■ 巻頭言 ■

社会党再生のためにはケジメが重要

デモクラッツ派の糾弾に全力を

厚顔・無恥のデモクラッツ派

村山連立内閣の成立から日時がたつにしたがって、その際に海部擁立のため策動した社会党右派の醜態ぶりが白日のもとに晒されている。この連中はもともと自分の選挙のことにしか頭がない、出世主義的変質性、金と権力に弱いことなど、その無責任な政治姿勢は日常的に明らかであったが今度の小沢工作（新生党の）によって表面化したわけである。そこでまずD派とか新政策懇話会などの右派のこの間の動き、「無責任が背広を着て歩いてゐる」といわれる姿を紹介しよう。

旧連立与党の一・一ライン、ことに小沢新生党代表幹事は、細川・羽田内閣のように優しい顔の首相を表面に立て、実際の政治のその裏では強権的に新保守主義政治を実行してゆくやり方を今度の政変劇のなかでも捨てていなかった。田中・金丸・竹下と続いた金権政治手法の悪い点を引き継いでいることは社会党右派などと比べれば立派であり根性があるといえる。これが社会進歩の方向ならよいのだが、まさに反動政治家のそれであり、彼の将来は悲劇的にならざるをえないであろう。

この彼にふり回されたのが社会党右派である。しかも右派はバラバラに対応したから小沢氏の思惑も大きく外れることになった。

「六月二十八日午前社会党の千葉景子副委員長が小沢氏と会っている。『小沢さんは、社会党のかんりの人数が思い切った行動を取るとお考えになっていたのかもしれないね。私は社会党が再出発するために、連立復帰に向けて頑張りましょうという話をしたんですが同時に（いざとなると社会党はそう簡単には分裂しませんよ）とも申し上げた。自民党も社会党も全国組織の集団ですから、何人かの議員集団の判断だけでは動かない』（週刊文春七月十四日号）。この千葉副委員長もD派だが、この時期に党の三役ともあるうものが単独で小沢氏と何を話合ったのか。右のように記者に語ったことだけではなさそうである。

小沢氏らの手段を選ばぬ社会党の分断工作のすさまじかったことはマス・コミの常識となつてゐる。「ある旧連立与党幹部は『小沢は羽田政権になつた時点で、もう社会党を丸ごと抱える気はなかった。左派を切り捨ててデモクラッツなど右派だけを取り込み、自民党の一部も取込んでポスト羽田政権を作るといのが彼の青写真だった。だからデモクラッツ事務局長の赤松広隆に対しては蔵相ポストの手形が一・一ラインによって切られていた』。反小沢の自民党幹部も、こういう。『デモクラッツに小沢からカネも流れていたという噂はボクも聞いた。（あれはデモクラッツじゃなくてゼニクラッツだ）というんだ。赤松や久保亘（書記長）あたりは、もう完全に小沢の手のひらの上で踊らされてたね。連合工作もぬかりがない。ある小沢に近い連合幹部は、はつきり『社会党が割れて』デモクラッツだけになつてもかまわない』と断言していた』（週刊現代七月十六日号）。

これだけ書かれても反論もしていないところをみると彼等も認めているということである。さらにこの週刊誌は「小沢・久保の非公式協議は、小沢がキープしていたホテルで頻

繁に行われています。赤松デモクラッツもたびたび同じホテルに部屋をとっています、そのカネはどこから出ていたんでしょうか。田辺誠（元委員長）や赤松らは、ここを拠点に小沢と連絡を取り合っていたんです」。

このような右派の言動については、日頃から左派・中間派は反発を強めていたもので、「自社連合」に向った村山派（主体性重視派ともいう中間派）は再び羽田内閣（社党の復帰）となるならば社会党は分裂させられると危機感をもったことは事実であった。小沢氏や市川・公明の一・ラインの手法で社会党も処理できると考えた（社会党を甘くみた）ところに旧与党の大失敗になったわけである。

社会党右派の誤算と敗北の原因は、連合（労組）を買いかぶったことと彼等幹部（患部かもしれない）のあまりにも信望のないことである。連合はバラバラである。いち早く村山支持にまわった自治労、教組、全電通などに対して全連、電機連合、鉄鋼、自動車などは批判的である。村山内閣成立への自治労の「転換・政治力」はかなりのものと評価されている。

現在の右派幹部といえ、田辺誠、久保亘、森井忠良、山花貞夫、左近正男、関山信之、田口健二、日野市朗、島崎讓、赤松広隆などの諸氏ということになるが、いずれの方々も小沢強権的路線に従属をした人達であって、強権政治手法に無批判で動いていたのである。「オソマツ」の一言につきる。紙幅の関係上いままら「ダラ幹」の方々の罪状をあげないが社会党を新保守主義の一・ラインに売り渡そうとした言動はとうてい許されるものではなく、自ら離党して勤労国民に詫げるべきである。

しかしこの人々の反省のない厚顔ぶりには驚くばかりである。責任をとらないばかりか、久保書記長は委員長代行に、デモクラッツ代表の森井忠良氏は国会対策委員長にそれぞれ就任しよう動きだしている。関山政審会長と田口デモクラ代表委員は与党政策調整会議のメンバーに加わり、関山氏に至っては与党内総務に就任している（院内総務には森井忠良氏も入っている）。これはデモクラッツ派に対抗した野坂国対委員長、山口予算委員長などの諸氏が次々と大臣になったため、その留守にそれらのポストを乗っ取るとういものである。

社会党の危機は続いているという自覚を

村山内閣の成立で、ひとまず社会党は分裂の危機を回避したとはいえ「危機」そのものを克服できたわけではない。「自社連立」のなかで新たな問題を抱え半年から一年先に危機状態を先送りしたということに過ぎない。問題点を検討しよう。

(一) 次の総選挙が「小選挙区比例代表並立制」で実施されるとなれば（村山首相は次は小選挙区と明言した）、現国会議員はもちろん、党の地方幹部・活動家の不安と選挙対策の方針（実際上の）が定まらず、社会党の団結、求心力はさらに弱くなる方向にある。

(二) 中央執行部は、久保書記長の委員長代行や国家対策委員長などのポストに右派が進出、新生、公明の新々党路線に再接近する可能性が強まる。指導性の弱まるなかで自社選挙協力が部分的に展開されよう。

(三) 最大に困難な課題は、村山内閣のこれからの政治・行政である。かつての自民党政治（官、財、政のユチャク体制）や最近の新保守主義の政治、行政、政策を排して、平和的民主的な勤労国民の求める施策を実行できるであろうか。実質的には自民党内閣である

だけに不安が大きい。これに失敗すれば社会党は片山内閣の二の舞となる。

(四) 連合内部は今度の政変と政界再編問題でバラバラになっており、鷲尾事務局長を中心に新生、公明、民社、日本新などの巻き返しが起るものと思われる。党内右派との結びつきや社会党選挙対策での後退が考えられる。

(五) 来年四月めざして統一自治体選挙対策も進められているが、中央政界の影響が強く、全体として運動が停滞している。村山政府のプラス面を生かすことのできるのは首長をもっているところであって、一般の県や市町村議員には関係が薄い。完全に近く地方政治を握っている自民党には有利であっても、これと闘わなければならない社会党にとってはマイナス材料が多い。統一自治体選挙の前進の展望をどう切り開くか。社会党の九十年代後半の命運がかかっている。

社会党再生のため本格的たたかいを

社会党が連合や右派のいつていたように、一・一ラインの路線に従って第二次羽田内閣か、第二次海部内閣に加わっていたならば、党の分裂は必至であったと思われるし、存在したとしても限られた時間の問題になっていたと考えられる。党の危機が先に延ばされただけとはいえ、この半年から一年間のわれわれの護憲派活動は極めて重要である。当面する活動の重点をそれぞれ職場で又は各グループごとに討議を深め、ねばり強く運動を押し進めなければならない。

(一) 九月三日に開かれる社会党臨時全国大会めざして①村山首相に投票しなかった議員の規律問題に明確なケジメをつけること。ことに田辺、森井氏らデモクラツ派幹部の責任は重いし、党の役職にある関山、田中の両氏も同様に規律委員会による処分を行うこと。
②久保書記長の委員長代行の就任は阻止して、他の人材を当てること。国対委員長もD派以外から出すべきである。③さらにこの大会での活動方針はD派のような分派活動を禁止して主体性をどう確立するかを明確にしなければならない。④活動方針は、各種選挙闘争と結合した大衆運動をどう展開するかに重点をおくべきである。消費税の廃改、軍縮、北朝鮮をはじめとする日本が戦争によって犠牲、被害、災害を与えた諸国との積極的友協関係の樹立、さらに経済援助の拡大など村山内閣のなすべきことが山積している。いずれのこととも国会外の諸運動がなければ官僚はサボルことは明らかである。そうさせない大衆的活動をどれだけやるかにかかっている。勤労大衆の要求をできるだけ取り上げ共に国会や各官庁に押しかけることである。

(二) 最後に残る問題は、「小選挙区制」である。このまま区割り法案が秋の臨時国会で成立すれば、年末の時点から、総選挙ができることになる。社会党の現状ではうまく行って三十〜四十の小党になるといわれる。護憲の政治勢力としては最悪の事態である。そうならないためにはもう一度現行の「中選挙区制」で総選挙を行うことである。そのためにあらゆる努力を傾けることである。そのためには真の政治改革である政治腐敗防止法の制定を前面に立てて区割法案よりも前に決めることである。

「小選挙区制」の危険性をもう一度全国的規模で明らかにして世論を喚起しなければならない。
(社会通信政権研究班)

自・社・さきがけ政権誕生で大混乱

——産別大会をめぐる情勢の特徴(一)——

七月に入って労働組合は大会シーズンを迎える。各産業別組合が直面している課題は、例年に増して激動する政治情勢、長期不況下の大合理化、円高と国内産業の空洞化、その結果としての日本の労使関係の崩壊の加速などに対応して、これまでの運動の根本的見直しを迫られている。以下、労組大会シーズンをめぐる情勢の特徴と、課題について報告する。

連合は再び股裂き状態へ

社会党が「寝耳に水」の諸党派「改新」づくりに反発して、羽田政権から離脱した直後から、連合、社会党と連帯する労組会議や自治労をはじめとする主要労組は一齐に「非自民・社民・リベラル政権への復帰、あるいは第三次連立内閣への社会党・民社党の参加を主張してきた。従って産別大会でも社会党の連立政権復帰の大合唱がかなでられる、という方向で大体一致する。これに対して一部からは、連合は社会党解体の先頭に立つのかという批判が出されるものの影響はないとみられていた。

しかし事態は全く意外な結果となった。六月二十九日、社会党村山委員長首班の社会・自民・さきがけ大連立内閣が発足したのである。今度は社会党が与党、民社党が野党で連合はまたまた股裂き、しかも連合の基本的政治路線の非自民もくずれて、大混乱におちいつている。

一体、自社連立は何を意味するのか、この混乱をどう整理するのかの合意なしに、今秋以降の政策闘争（減税、年金、消費税、税制改革）も進めようがない。また来春の統一地方選挙、続く参議院選挙の統一候補選出も決められない。ましてや小選挙区比例代表並立制の候補選立にも取りくめない。概して連合と産別の村山内閣への反応は冷淡である。

自民党が六月二二日、羽田内閣不信任案を提出、社会党も二四日に羽田内閣総辞職を要求、これをうけて二五日、羽田首相が総辞職を発表したとき、連合は日曜日にもかかわらず幹部会（六人委員会）を召集（山岸会長はジュネーブに出張中）、「現下の政局に対する連合の見解」を次の三点にまとめた。

①解散、総選挙をさせ、羽田首相が総辞職を決断したことは妥当であったと考える。この結果、新しい連立政権の枠組み作りを道を開いたことは評価できる。従って今回の混乱状態を早期に脱却するため、連立政権作りに向け政権協議を一刻も早く再開することを期待する。

②そのさい政権は五五年体制を終結させた昨年八月における細川政権の枠ぐみの再生を基本にすべきであると考える。

③連合は連立与党、社会党などのトップ会談による事態の早期打開を期待する。

以上の見解について自治労後藤委員長は「非自民が最優先、自社連立は念頭にない」と述べ、同日、野坂社会党国対委員長に申入れ、翌二七日に芦田連合会長代行が、社会党・

民社党双方に申し入れた。

また連合の働きかけによって連合出身の社会党・民社党議員八名の呼びかけで二八日「自社連立に反対し、政治改革を推進する連立政権を実現する会」が開かれ、約八〇人が参加した。同日「真の政治改革を推進する会」の総会（山口元社会党書記長が座長）が開かれ「村山首相の実現を目指す。自民党との連立にこだわらない」ことを確認、ここには三一人が出席した。また左派グループ「太陽」を中心に二八人の議員も集まり、村山首相実現を確認した。

村山政権に冷淡な労組

こうして二八日、社会党内は完全に分裂、二九日の村山・海部（旧与党連立がかつぎ出す）決戦投票で村山首相を選出。片山内閣以来四七年ぶりの社会党首班内閣が誕生することになった。

連合の確認は完全に無視され、六月三〇日の緊急中央執行委員会は「われわれの期待と大きな違いがあり残念である。羽田政権と同様、政策を通じては々々々々主義の立場で対応する」と確認。友愛会も同日、「自民党の復権であり遺憾である」と批判。

自治労は七月四日、全国委員長、書記長会議を開き「村山内閣に対する基本スタンス」として「われわれが期待した姿とは異なった政権構成だ。しかし保守大連立や自民単独といった最悪のケースはさげられた。与野党の垣根をこえた視野で新しい政治勢力の形成を目ざし、民社、日本新党などリベラル勢力の結集を図る必要がある」との見解を表明。自治労出身の村山首相であり、裏で自民連立を画策した主導勢力をみられているだけに、いかにも苦しい見解である。

社会党と連帯する会（七・五）に出席した村山首相は「皆さんの意に沿わない形で新内閣が誕生したが理解してほしい。この内閣は『社民リベラル・ハト派内閣』だ」と自ら党の性格を規定してみせた。

こうして発足した村山内閣に対する連合主要単産の評価はきびしい。

日教組第七九回大会（七・一―三）の冒頭、横山委員長は「新政権を基本的には支持する」としながらも「自社が十分な政権協議もなく政権を担うことに国民の戸惑いがある。国民の不安や野合批判に謙虚に耳を傾けるべきだ。政策を中心に協力関係を保てる努力を続けたい」と是々非々の立場で臨む態度を表明。

電機連合第四二回大会（七・六―八）で岩山委員長挨拶は真向からの社会党批判、「政権復帰のためにはなり振り構わない自民党の党利党略に乗ったもので、自民党を利用するだけではないか。首相指名で海部票や白票を投じた社会党議員を絶対的に支持する。」を述べ、今後については「保守対保守の二大勢力ではなく、リベラル勢力の幅広い大結集が必要」と強調、村山内閣には是々非々で臨むとしている。

全通第四八回大会（七・六―八）では、伊藤委員長が「村山政権の発足の経過は、私たちの方針とは違ったものとなり、全通と社会党の間にかい離が生じた。私たちの社会党への期待を損ね、到達点は全通の方針と異なるものとなった。この関係は当分続く」と新政権に否定的評価を下した。

（つづく）

◇ 広島からの報告 青票議員が広島に勢揃い ◇ このアクションを全国に拡大しよう

「信念の政治家—明日の日本と世界を語る」

「信念の政治家—明日の日本と世界を語る」とのタイトルで開催された護憲派・青票議員を励ますトリプル集会は、六月一八日に広島県府中市・福山市・尾道市で行われ、最近ではめずらしく盛り上がったものであった。この集会は広島三区選出の青票議員・小森龍邦さんの後援会を中心に、小森さんを支援する労働組合員や地方議員、解放同盟員も多く参加し、三会場には約三千五百人がつめかけ、八人の青票議員の熱のこもった演説に共鳴した様子で聞き入っていたのが印象的であった。

広島の心を全国に

連合の主力組合から耐え難い圧力を受けながら平和と民主主義を守るために自らの政治信念を貫いた八人（岡崎ひろみさんは欠席）の衆議院議員。地元の選挙区にあって支持者の方から励まされること、何よりも心強いのであるが、社会党中央のデモクラツグループとこれを支える連合主力組合の護憲派議員のバジ攻勢の中で、この攻撃が選挙区にまで及んでいれば時に孤立感を憶えることもあろう。

しかし、広島三区の情勢は全国の流れとは無縁である。全国的に社会党が大敗を喫することになった九三年の衆院選挙にあって「政治腐敗の根絶」と「消費税廃止」「ヒロシマの心を世界に」を政策の柱にして全選挙区で議席を維持した経験、また九二年の参院選挙で連合候補に勝利した広島は、社会党中央が失いかけて「護憲」という原点を市民レベルで守り続けている。そのことが県民の信頼を集めることになり選挙に勝利したのである。この広島での教訓を全党的に普遍化すべきである、と全国の良心的な同志に訴えたい。

三会場で開催された青票議員を励ます広島三区集会は、どの会場も熱気で盛り上っていたが、ここでは福山会場での青票議員の奮闘ぶりを紹介しよう。

八人の青票議員が登壇

小雨にあじさいの花が美しく目に映える、という形容詞がびつたり梅雨シーズン。六月一八日、朝からの雨は降ったり止んだり、集会への参加状況が少々心配であったが、集会開始時刻の午後三時三〇分頃には場内は満員になり、司会役の山崎広美さん（解放同盟）の澄みきったソプラノの声が会場いっぱいにこだましていよいよ開会である。

はじめに主催者を代表して挨拶に立ったのは、小森龍邦後援会の山崎絹子副会長。国民の政治不信が増幅している昨今、政治家としてのモラルを堅持し信念にもとづいて行動する青票議員を会場いっぱいの熱気で包み励まそう、と呼びかけた。以下、出演順に紹介しよう。（前会場からの移動の関係で当初の予定より順序は変更されたようである）

トップバッターは、地元選出の小森龍邦さん。小森さんは国会議員として選挙公約（人権・平和・民主主義）を国政に反映させるために体を張ってたたかっている様子を報告された。また、自らの信念を投げ棄てて保身に明け暮れる社会党議員が多い中において、勇

気をもって正義と信念を貫きとおして心情を語り、会場から「小森ガンバレ」の拍手でムードは一気に盛り上った。

次に登壇したのは濱田健一議員（鹿児島二区）である。濱田さんは、大先輩である村山喜一さん（前衆議院副議長）から教えられた「普通の労働者の生活感覚を持った政治家であれ」との言葉を引用し、政治家として執るべき姿勢を強調した。

続いて金田誠一議員（北海道三区）が登壇し、連合主力組合からの青票議員への圧力に屈しないで護憲派議員として行動することに誇りを持っていることを訴えて会場から激励の拍手が湧いた。

次に北沢清功議員（長野四区）が登壇。北沢さんは、地元の安曇野の自然と農業問題について話され、連立政権がすすめたコメの自由化は農民を苦しめるだけでなく、日本の食とみどり、自然を破壊するもので、これに反対し続ける、との決意を表明された。

続いて登壇したのは地元選出の参議院・栗原君子さん。栗原さんは増税・福祉・教育について熱く語り、栗原さん自身、久々の地元での演説会だけに気の入れようが違っていた。あつという間の彼女の演説に何か物足りなさもあったが、詳しくは後援会ニュースを期待したい。

続いて三野優美議員（香川一区）が登壇し「優美」というイメージを裏切る「マスク」に自らお詫び？する一幕もあり、また三野さんは小選挙区法案の採決の際の決断をコントの「青信号……」を持ち出し会場から笑いの渦がおこった。

次に秋葉忠利議員（広島一区）が登壇。平和のシンボルであるヒロシマにあって、平和憲法擁護を基調にした政策ステージ「太陽」のめざす、その理念などを語りながら「太陽」への支持を訴えた。いつもの清新の気がみなぎる秋葉さんへの期待の大きさが感じられた会場の雰囲気であった。

地元兵庫での選挙応援で止むなく出席できなかった岡崎ひろみ議員（兵庫一区）からのメッセージが披露された後、最後に登壇したのは、岩垂寿喜男議員（神奈川県一区）である。朝鮮半島情勢を口実にした連立政権の危険な動きについて、その本質を鋭く突いた岩垂さんの演説は会場を埋めた参加者に共感を与えた。そして岩垂さんは、小森さんの政治姿勢と勇気ある行動を護憲派勢力の財産にしようと訴え、これに呼応し会場から大きな拍手がおこり、励ます会にふさわしい締め括りの岩垂演説となった。

このアクションを全国に

最後にステージには八人のメンバーが再登壇し、全員に激励の花たばが手渡され、会場からの拍手が続きすばらしいフィナーレをもって集会を閉じていった。

このアクションを全国に拡大したいものである。

（池上 文夫）

出口はアメリカン・スタイルの 「リストラ」のみ？

——ナポリ・サミットとヨーロッパ経済の現況——

ゾラの映画化が迫真感をもって観られる

膨大な失業者が溢れているヨーロッパは、不安に覆われています。危機を感じたEU諸国の指導層は昨年末に会合を開きましたが、何の結論も得られませんでした。TIME誌は二月七日付けで以下のように書いています。「仏代表の脳裏には、ゾラの『ジェルミナル』の新版映画のシーンが浮かんでいたであろう。仏だけでなく、ヨーロッパ全体で引き締めに対する労働者の反抗ムードは高まっている」。

ゾラというとすかさず『居酒屋』を思い出す方もいると思います。『ジェルミナル』は、一八八五年の作で仏北東部の炭鉱に働く坑夫たちのスト準備工作、突入とその余波を描いています。これは労働者による革命の可能性を真剣に取り上げた最初の小説とされています。これが、一〇〇年以上たった仏で上映され、迫真感をもって観られているのです。またTIMEがパリでインタビューしたコンピュータ・インストラクターの女性は「実績を上げても上げて（ハイパー・パフォーマンス）サラリーは悲惨なものよ。でも、自分の上には屋根があるし、サラエボみたいに爆弾が降ってくるわけじゃないし」と語っています。先端的な職業に就いている「キャリアウーマン」の言葉だけに見逃せません。失業者の圧力が、いま職についている者にも激しく作用しているのです。

若者は最大の被害者

OECD諸国内の失業者は今年末に三六〇〇万人になると試算されています。イギリスの労働党選出の国会議員は、下層階級が長期失業によって打ちのめされているとし、「定職がないことが普通の家庭で子供たちが育てられている」と語っています。表に明らかのように全年齢にわたる失業率も高率ですが、若者の失業率は手がつけられないほど高いものになっています。スペインの若年失業率は三七・九%、イタリアでは三〇・五%に達しています。また、これまでパート労働を中心に組み込まれてきた女性も首切りの前面に立たされています。ベルリンで鉄鋼製造の品質管理に従事している四十歳の女性は「もはや製造工程に女性は一人もいない。会社は二十年の経験を持つ、二五歳の女性を雇いたいと考えているのだ」と語っています。

「機械化・合理化が職を奪った」

この原因は私たちが日々感じているように、次の言葉に集約されます。「この数十年間の機械化と合理化、コンピュータ化が職を永久に奪い去った」。

これはTIME誌の読者の便り欄に載ったドイツ人の文章の一節です。TIMEも合理化が「労働の対資本比率を様々な生産過程で極端に低めた」ことが失業者の大幅増の原因として上げています。資本家側の機関紙でこのようなことが堂々と述べられていることに

注目しなければなりません。

※ この見解は資本サイドではもはや常識のようです。ILO（国際労働機関）の三月六日発表の文書によると、一九九四年初めで「失業中、あるいは最低生活水準を満たす程度の職に就いていない不完全失業者は世界で推定八億二千万人に上り、全労働人口の約三〇％に達することが明らかになった。世界労働市場は三〇年代の大恐慌以降で最悪の危機的状況にあるという。：同報告は雇用危機の要因として、科学技術の革新ペースが速まり、多くの雇用が失われていることと、世界経済の競争激化で企業が合理化を迫られていることを挙げている」

（読売新聞）九四年三月七日付夕刊

強制時短と賃下げ、社会保障のカット

これに対し、ヨーロッパ各国では様々な試行錯誤が行われています。それは、強制時短と賃下げに集約されます。独のフォルクスワーゲン社は、労働時間を週四日にし、賃金を一律二〇％カットすることで労資合意しました。労働大臣はこれを他へも広げようとしています。また、フランスでは学生、労働者の流血デモにまで及んだ猛反発で撤回されましたが、二六歳以下の初就職者の法定最低賃金が三〇％近く引き下げられようと言われました。仏では十八歳から二四歳の失業率が二五％になっており、この解消のために政府は上記法案を上程したのです。ベルギーでは数年前の時短が労働者の雇用につながらなかったことから、今後三年間インフレに合わせた賃上げを制限し、社会保障もカット、そして資本家のコスト負担を軽減して恒常的に職のない青年層の雇用機会を広げようとしたところ、じつに一九三六年以来のゼネラルストライキが引き起こされ、国中が麻痺する事態に至りました。

日本では時短によるワークシェアリングで雇用を増やすという主張がさげばれています。独の時短政策を仏の経営者は「風変わりな窮状の分かち合い」とか、仏の企業相は「軽率で我々のとるべき道でない」と語っており、ベルギーの雇用相も「単純な時短は無意味」としています。ベルギーでは企業側が合理化努力で時短に適応し、新たな雇用を産まなかったのです。冒頭の昨年末のEU指導部の会議でも時短は有効な施策として採用されませんでした。

「規制緩和」が解決策として意志統一されようとしている

そして、このような状況から意志統一されようとしているのが、民営化と規制緩和です。典型的な例は仏で試みられようとしています。雇用を最大の課題とするバラデュール内閣は昨年九月に雇用対策五か年計画をまとめました。計画では、現行の強力な解雇規制や労働者保護など雇用の創出の障害となつている「硬直性」を除くことが目的とされています。そこでは、①社会保障費の企業負担の軽減による労働コストの切下げ、②雇用削減を話し合う労資協議制度の簡素化、③一年間の変形労働時間制、パート化や期間契約の促進、日曜営業の推進などが掲げられています。「硬直性」の除去によってアメリカン・スタイルのリストラが行われようとしているのです。

そして、これはヨーロッパの資本にとっては不可避の流れでもあります。深刻な不況に

あえぐEU内では新車売上が一五・二%も減少していますが、米国のゼネラル・モーターズとフォードは逆に売上を伸ばしています。ゼネラル・モーターズはEU内で第二の自動車企業になっています。また米国家電メーカー、ワールプールはEU内で第三位の地位を確固たるものにしています。IBMは八九年から九二年にかけて二〇〇億ドルを越える投資をヨーロッパに行っています。この投資はアメリカ企業の海外投資利益の六〇%分にも相当するものです。米国企業はヨーロッパのコンピュータ関連市場の五八%を支配しているとも言われます。AT&T（米国電話電信会社）やその子会社も通信分野にこぞって進出してきています。リストラに成功した米国資本は過剰資本にあえぐヨーロッパ資本を尻目に、自由に行動し利益を上げているのです。ヨーロッパ資本は生き残りをかけて、その「硬直性」から脱していかざるをえないのです。

その結果は見えています。下のグラフはGDPの伸びに対応していかに雇用が伸びたかをアメリカとヨーロッパのOECD加盟国、日本について見たものです。一見するとアメリカは成長に合わせて雇用が伸びており、よいように思われます。しかし先にも見たようにアメリカでは大企業では吐き出されるばかりで、デッド・エンド（袋小路）の仕事がふえているだけなのです。規制緩和が進む日本でも、主要企業の雇用増はなく不安定な労働者が増えていることは、現に我々の目前で進んでいる通りです。

しかし、これがナポリ・サミットで合意されていく大筋であることは間違いないありません。資本主義はその原点に戻ることによって、危機を乗り越えようとしています。労働者階級の反抗は不可避免です。

「使い捨て商品としての労働力」

四月十八日付け朝日新聞は、「日米欧経済戦争」というテーマで行われたフォーラムの概要を掲載しています。

その中でアルベールという仏銀行金融政策理事会理事は「米国型は労働力を使い捨てのできる商品、生産要素のひとつとして見なすのに対し、欧州型は企業と従業員の関係を重視する」としつつ、「欧州各国のひとつの選択は、一定の貧困を甘受することだ。賃金を低く抑えながら雇用を創出していく。米国ではその道が取られている。欧州でも労働条件の柔軟性を高めようという動きは出ている。」と述べています。

また、レスター・サロー（『ゼロ・サム社会』の著者）は「…停滞する環境のもとで、唯一収益を上げる方法は、従業員の首を切り、企業の規模を縮小することだ。その点では米国型の方が現在の経済状態に対応しやすい」と語っています。これら、露骨な発言はすでに実行されており、大きな摩擦を生んでいます。

労働者の反抗

先にもみたように、ベルギーでは賃上げ抑制、社会保障のカット、資本家のコスト負担を軽減して雇用を増やそうとする政府提案に対して、昨年末に一九三六年以来のゼネストが敢行されました。フランスでも国営エール・フランスの四〇〇〇人首切り提案に労働者はストで応え、提案は撤回され、総裁は辞任しました。また、この三月には若者版最低賃金の引下げに抗して、学生が全国で立ち上がりこれもまた撤回させています。

スペインでは社会労働党政権が労働諸法規をフランコ独裁政権時代のものに後退させようという提案（賃金抑制、解雇条件の緩和）を撤回させようとしたのに対して、一月末に八〇〇万人がゼネストに参加し、二〇〇万人のデモが組織されました。ドイツでは、三三〇万人を擁するIGメタル（金属産業労組）は今春闘で五・五％～六％の賃上げと週三五時間労働の九五年からの計画通りの実施を要求しました。これにたいして資本側は「競争力回復」を掲げ、賃上げゼロと休暇手当廃止、労働時間の弾力化を逆提案し、IGメタルは断続的に警告ストを実施しました。無期限スト実施のための組合員投票の要請も各地から寄せられました。イタリアでは国内最大企業であるフィアット・グループが、一月に九三年度十億ドルの赤字決算を発表し、一三〇〇〇人の人減らしと工場統廃合の企業再建三年計画を発表しました。これは前代未聞の怒りを巻き起こし、数千人の本社前デモも組織されました。

「雇用確保」路線がまた、労働者の首を締める

しかし、深まりゆく危機を前にして労資協調路線が広がっていることも事実です。ドイツのフォルクスワーゲン本社のあるウォルフスブルグ市の失業率は一三％に上っており、これが週五日から四日への強制短時と二〇％の賃下げ提案を組合側に呑ませることになりました。「雇用確保」のために労資あい携えて立ち向かうとされているのです。これが全国に広げられようとしています。

また、イタリアでは二年前に「スカラ・モビレ」が廃止されました。これは賃金を物価上昇に合わせてスライドさせていくものでしたが、今では賃上げ率を生産性上昇率と連動させる労働協定を政労資で合資するにいたりました。賃金が生活から切り離され、企業の利潤次第で上下することになります。合理化に協力しなければ賃金は上がらず、労働者同志の競争はますます激しくなります。この上にフィアット・グループの提案があるのだという事です。

大きく減少してきた労組組織率―反抗も「一揆」に終わる？

加えて、労働組合の組織率が長期にわたって低下していることには着目せざるをえません。私は先進国最低の九・六％に落ち込んでいます。イギリスは七九年の五一％から九一年には三七％へ、ドイツも日本に比べれば高いですが三〇％を切ろうとしています。闘うIGメタルもこの一年間で組合員を四〇万人減少させています。

労働者の団結力の最も基本的な指標が低下していることは、現在の反抗も一揆的に終わり、資本側に押し流される可能性が大きいということを意味します。

現体制では解消されない膨大な失業者群と、不安定労働しか生まない雇用政策は、ドイツやフランス、イタリアに顕著に現れているように、ファシズム勢力を増加させこそすれ減少させていくことにはならないでしょう。ヨーロッパに蔓延する失業は、民主主義という政治形態まで震わせる脅威となっているのです。

金日成主席の急逝と朝鮮情勢

第二次世界大戦中の反帝・民族解放闘争と社会主義革命のリーダー第一世代の巨星の最後の一人、金日成主席が心臓発作で急逝した。つい数日前まで外国からの賓客を接見し、とりわけ三週間前カーター元米大統領と会談する元氣な姿がテレビでも報道されていただけに私たちの驚きは大きかった。

一九二〇年代から今日まで、朝鮮と朝鮮民族の解放のために日本帝国主義と闘って勝利し、その闘いの中で主体（チュチェ）思想を鍛え上げた社会主義者であり、世界的革命家だった金日成主席の御霊に深く頭を垂れ、ご冥福を祈ると共に、主席の突然の逝去に慟哭する朝鮮人民の皆さんに心からお悔やみを申し上げる。

革命伝統を守る後継者の選択

NHKを初め各テレビ局は主席急逝の第一報を流すのと同時に「クーデターによる死亡説」を流した。その説の出所はワシントンだった。東京から第一報が入ったときワシントンは夜中だった。ピョンヤン放送を聞いた日本からの第一報にコメントを求められた国務省の朝鮮担当者が余りに突然の逝去に驚いて、主席の死因も分からないままに「何かあったのではないか」と言ったのがそのままワシントン発で打ち返され、日本で「クーデター説」もあると報道したというのである。

日本のテレビ局がピョンヤン滞在中の中丸薫氏に電話を掛け、「不穏な動きはありませんか」と一所懸命質問していたが、主席の急逝をめぐる特集番組に次々に登場した大学教授や評論家など多くのコメンテーターの発言にも主席の急逝の背後に何かあったのではないかと、強硬派が朝米会議の進展阻止に出たのではないかとという憶測が滲み出た。主席の生前と変わりが無い序列で葬儀委員会委員の顔ぶれが明らかに、革命博物館正面の主席の銅像の前で慟哭する市民の悲しみに打ち伏す姿と涙声のほかほかいつもと全く変わっていないピョンヤンの状況が伝えられてくるにつれて、「クーデター説」はマスコミから消えたが、後継者金正日書記をめぐるコメンテーターの発言は、二、三の例外を除いて、首を傾げざるを得ないものばかりだった。というのは、キャスターが「朝鮮問題に明るい先生方」と紹介しているものの、彼らの大部分はこれまで北朝鮮パッシングの先頭に立つたその片棒を担ぐかしてきた連中で、朝鮮民主主義人民共和国に対する悪意に満ちたコメントで紹介していたからである。

例えば、NHKなどは「金正日書記が後継者になる可能性が高い」と言っていたが、金正日書記は一九八〇年の労働党第六回大会で主席の後継者に決定しており、従来の公式の場に主席と写真が並べて掲げられてきていることを知らないであろうか。あるコメンテーターは「金正日書記は軍を掌握し切れていない」と言い切っていたが、党大会で後継者に決定して以後、重要な現地指導の場に軍の最高実力者と言われる人民武力相呉振宇元帥が影のように書記に連れ添っている姿に気が付いていないだろうか。

いまでも金日成主席を独裁者だと決め付けるのが西側の常識になっているが、主席が大衆の末端にまで声を掛け、大衆の声に耳を傾ける現地指導という作風を確立し、党と大衆が愛と信頼に深く結ばれている事実は重い。金正日書記も後継者に決まって以来十四年間、実にせっせと現地指導を続け、書記と直接接したくない国民はいないという事実を無視してはならない。主席が金正日書記を組織担当と呼んでいたことも重要である。

あるコメンテーターは「金正日書記体制が確立できるだろうか」と疑問を述べていたが、一九六九年初めて朝鮮を訪問して以来ピョンヤンからの情報によって朝鮮民主主義人民共和国の動向を注意深く追ってきた筆者から見れば、金日成体制をそっくり金正日書記が引き継ぐ体制は既にできており、引き継ぎは順調に進んでいると判断している。言い換えれば、金正日書記が党総書記と国家主席の椅子を受け継いだとしても、その他の幹部の地位と職にはほとんど変化はないだろうと言うことである。

あるコメンテーターは「金正日体制は二、三ヶ月から二、三ヶ年しか持たないだろう」と言っていた。早ければ二、三ヶ月で体制に動揺が現れるというのも悪意に基づく憶測であり、根拠のある情報ではない。ましてや二、三ヶ年もすれば老幹部の中には病気になる、死亡したりする人もあるだろうから幹部に当然異動が生ずるだろう。しかし、共和国の労働党と政府の体制には大きな変化は生じないだろう。

十四年前から後継者を決めて革命伝統と体制の継承を準備してきたのは何のためだったのであろうか。後継者問題について筆者が幹部から聞いた言葉を出す。「ソ連では最高指導者が死んだり変わったりして権力が移動するたびに混乱や政変が起きている。わが国では反封建・反帝・民主主義革命から社会主義建設へと歩んできた革命伝統の正しい継承発展を保証するためにもっとも適切な後継者と決めたのだ」と。

主席の急逝を報道した後、ピョンヤンのラジオ放送が主席の回顧録「世紀とともに」を朗読しているのを知った。日本語判も第四巻まで刊行されているが、特に第四巻は単に過去の事実を回顧するだけでなく、現在の情勢に過去の経験を重ね合わせて祖国統一に向けての主席の思いが語られている。その回顧録は主席の遺言に通じていると直感したのは筆者の早合点だったであろうか。組織や体制だけではなく思想の上でも、金日成主席は権力継承にあらゆる面から準備を整えていたのである。

著者は一昨年主席生誕八〇周年の祝宴で金正日書記と初めて握手をし、短い挨拶を交わしたことがあるが、聡明で爽やかな印象を受けた。テレビのインタビューで井上周八一橋大名誉教授が「金正日書記は立派な方で、堂々と主席の後を継がれるだろう」と言っていたのは決して間違っていないと思う。

朝鮮は一つである

本誌は既に「北朝鮮の核疑惑」問題の震源地はワシントンであり、そのまた中心が冷戦終結で改組を迫られているCIAと軍縮を避けられなくなっている国防総省の改組・反軍縮勢力であることを明らかにし、旧連立政権の新保守主義者がこの改組・反軍縮勢力と結び付いていることの危険性を指摘してきた。

クリントン は四月末の段階で、経済安保を優先する対アジア政策の見直しを打ち出したが、カーター元大統領の朝鮮訪問はその見直しの成功のためにCIAと国防総省の反改組・反軍縮勢力と対アジア政策見直し派との綱引きの中に割って入り、朝鮮問題の対話による解決の道を引き出すものだったのである。

金日成主席がこの機を逸せずカーター元大統領を歓迎し、朝米が対等の立場に立つ対話による「核疑惑」問題と朝米国交正常化の一括解決を提起したのはさすがだった。あるテレビのコメンテーターは「強硬派の金正日書記と軍が柔軟派との路線闘争が激化し、米朝対話の前途は厳しいものになるだろう」と言っていたが、強硬派と柔軟派の対立が共和国内にあるのだろうか。その具体的根拠は示されていない。著者が知る限りでは、党内の老・壮・青の団結は固く、「一心団結」のスローガンの下に党と人民が整々と行動しているのである。

朝米高官協議は、金日成主席が希望してただけでなく、朝鮮労働党が対米関係改善が朝鮮問題解決のカギであるとして数十年来要求してきたものであり、それを朝鮮側がキャンセルする理由はさらさらない。突然の不幸にアメリカ側が理解を示し、暫時中断に同意し、協議再開の態勢を崩していないのは当然であろう。

小沢一郎氏とアメリカ政府の対日政策担当者との間の強いパイプはもう常識になっていたが、羽田内閣の柿沢外相が米・韓・日三角同盟による「北朝鮮制裁」に必死だったことは、そのパイプがアメリカのCIAと国防総省の反改組、反軍縮勢力に通じていることを示唆していただろうか。とすれば、小沢一郎氏の「普通の国」の本質も察しがつこうと言うものであろう。また、カーター米大統領が、先週日本に来たとき、米朝会談に日本は口出ししないで、会談の中で出るであろう軽水炉建設に協力して欲しいと言った背景も、分かると言うものではないだろうか。

朝鮮は一つである。この基本認識を忘れた議論はすべて後ろ向き議論であり、日本のマスコミの基本的姿勢はこの基本認識を無視しているところに問題がある。主席の急逝を知ったソウル市民も驚きと同時に、統一問題の解決に不安を感じている様子がテレビの街頭インタビューで伝えられた。しかし、金日成主席が金正日主席になっても「朝鮮は一つ」という認識にも祖国統一を優先課題とする方針にもいささかの変化もないと、筆者は確信している。ジュネーブで待機中のアメリカの代表団によれば、朝鮮側は南北会談も予定通り開催したい意向を伝えているという。日本のマスコミはこの情報を伝えながら、特集番組ではこれを無視して、主席の急逝に伴う「政変の可能性」ばかりを議論しているのだからやり切れない。党中央委員会と最高人民会議が召集されており、金正日書記の総書記と国家主席就任も時間の問題だろうから、悪意を下敷きにした憶測とそれに基づく情報も消えていくだろう。しかし、悪意は執拗に残るからわれわれは用心が肝要である。

(七月十一日 若林)

◇ 読者と編集部との「対話」 ◇

音威子府ようかん売ってるよ 婦人会議の兵庫県本部大会で音威子府ようかん五〇本だけです売りが切れました。「通信」五七一号の千葉真貴子さんの文章が心に浸みました。ささやかですが、また注文とります。
(兵庫・門永三枝子)

同趣旨のお電話を埼玉のTさんからいただきました。地域おこしと、地元で闘うための生活と闘いの基盤をつよめるために、国労音威子府闘争団の団員と家族は必死です。この六ヶ月間はとくに、これまで羊かんづくりでがんばって来られた藤安さんは営業へ。杉山さんと今野さんと三人で羊かんと木工品をたくさんかかえて道内を隈なくまわり拡大に精を出しています。生産の方も工場を拡張して大忙がし。羊かん部門は富田さん、菅井さん、岡嶋さん、菊池さんの四人が。木工部門は岡田、小西、渡部、滝川、藪本の五名のみなさんが、フル回転。いきいき楽しく、活気にみちています。

一度、見学ツアーをとりくんでみてはいかがですか。コバルトブルーの澄んだオホーツク海と大草原のお花畑。そこでがんばる闘争団の方々との交流は、大きな力が湧いてきます。心をこめて製造されたぬくもりのある木工品と細心の注意でつくられたおいしい羊かんがそのお土産品。交流後は、一味ちがった大切な一品となることでしょう。

◇羊かん、木工品製造・販売先 北海道中川郡音威子府村字音威子府二九九番地 国労音威子府闘争団(TEL 〇一六五六―五―三三六八 FAX 〇一六五六―五―三三四三)
「環境美人」発売 全国三六の国労闘争団、なかでも「元気印」のトップを行くのが留萌闘争団だ。過日、見本とともにこんな便りが寄せられた。

「労働者協同組合るもい」で、廃食油を再利用して石けん作りを開始。市の協力も得、六月十日から「環境美人」(石けんの名称)として販売にこぎつけた。一ヶ月の生産・販売目標は一・四トン。販路拡大に協力されたし」というのがその主旨だ。

るもい特製の「環境美人」は粉石けん。二キロで七五〇円(十袋単位で送料は一袋につき五十円・当面)、回りの仲間に広めていただきたい。すでに使用された人からは①汚れ落ちがよい②赤ちゃんの衣類洗濯に安心③ふっくら仕上がり④油污れの落ち具合は抜群との声が寄せられているという。食器、浴槽、畳、換気扇、流し台、ガスレンジ、洗車等、使用用途は万能。お申し込みは「ワーコレるもい」(北海道留萌市栄町一丁目、TEL・FAX 〇一六四―四三―三九五九)まで。

経費節減努力に敬意 郵便料金の値上げにもかかわらず、まずは経費節減から始めるとは、「通信」の姿勢には頭が下がると同時に、誰かさんたちにも(どこかの国会議員達)しっかりとツメのアカをせんで飲ませたい気持ちです。以降も変わらぬ活躍を期待します。

(鎌倉・K)

「生活と労働のムダをばぶき闘争資金をつくる」、これは国労闘争団から学んだことです。社会通信社もない知恵しぼってがんばっています。二月十一日号でお願いした多数の誌代の請求方法の変更をはじめとして、社内では、三%引きの安い切手の購入、これまで車をお願いしていた郵便局への荷物はこびも台車で自らの手で等々。また、六月期決算をながめながら、自らの労働過程を反省しつつ、さまざまに検討しています。まとまると結構大きいものです。

◇ 読者からのおたより ◇

ともにがんばる 全国各地のたたかいを集約する意味でも（「通信」の前進は）ますます重要です。ともにがんばりましょう。（東京・Y）

正しい道照らして 送金遅れてすみません。「護憲ネット」に入っている仲間、読者を増やそうとオルグして遅くなりました。そのかいあって一人増やすことができました。次回より一部増でお願いします。政治情勢、職場情勢はたいへん。学習を含め現状克服に向けてがんばりたいと思います。滝野さんも身体に気をつけて、これからもぼくたちの燈台として明るい未来に向けた道標として、正しい道を照らし続けて下さい。（京都・S）

情報は貴重 代金遅くなりすみませんでした。中小未組織労働者となると、情報は貴重なものです。貴誌の一層の発展を念じています。（東京・S）

七月より専従へ 七月から県職専従の予定です。組織内県議誕生へ精一杯がんばりたい。送付は自宅に願います。（自治労・K）

三〇年間党員だったが 少しですがカンパを含めて一年分送金します。社会党に対して希望と絶望の三〇年間でしたが、貴誌を読むと涙ぐましい努力をしている「本物の社会党員ここに有り」という事がわかります。私も微力ですが、地区労働体攻撃を八王子の地でたたかっています。（都職建設現業労働者）

編集部より カンパありがとうございます。いよいよ正念場です。まなぶ講演会 次回からSさんの分は本人に請求してください。当地では第二大次まなぶ講演会を実行委員会を結成し、会員が中心に取り組んでいます。（北海道・I）

編集部より お久しぶり、お会いしたいですね。

ピラハ〇枚はりました 「社会通信」が待ち遠しい感じています。郵便物の中で「通信」を発見すると、真っ先に取り上げて読みます。時々なじみの患者さんに少し待ってもらい読んだことがあります。歯切れのよい論調に共鳴しています。九四年五月二八日、小生居住の地区にピラハ〇枚をはりました。支持者の家々や自治会の掲示板に。憲法、消費税、米問題等々の。（愛媛・M）

黄門さんご一行 名寄闘争団に岩井さん一行六名が激励交流に。助さんに山下さん。角さん役は子島・小野寺両氏。七二歳の岩井さん、益々元気。早朝から宿泊さき周辺の散策。緑を満喫。どうやら助さん、目的のもう一つは根ワサビの捕獲？ 廃屋跡地でシヨベル片手にワサビ大群の大捕物。（いつもと目付きがちがうコワイ！）角さんのO氏、「捕獲」したワサビをポリポリ。いわく「ウーン、ワサビの味がする」（ワサビだっチューンに……）アリの巣発見した黄門様。「どうしてここにアリは巣をつくるのかネ。死体でも下に埋まっているのかネエ」（そんなもんじゃないっチューンに）。「それにしても、尋ねられたほうは困った顔してたチューン」「サテ、サアリが暮し易いからでしょうか？」どもあれ感性豊か。かく有りたい。しばし子どもにかえったつかの間の一時。（名寄・雀）

高福祉の理念は超党派 ハメル市（スウェーデン）は、市長が社民党、議会は社民党が第一党の連立で構成されています。社民党八、自由党六、保守党二、無所属一で、安定多数ではありませんが、長年培ってきた高福祉の理念は党派により揺らぐことはないそうです。

それだけ国民、市民のコンセンサスができてきているということですね。

どうしてなのでしょう。私は実際に行ってみても民主的に話し合いをしてみんな決めていく作風があることが大きいと思いました。それを端的に表しているのが選挙の立会演説会でした。ちょうど一月一六日に投票日ということで、八日の夜立会演説会があり、私たちも参加する機会を得ました。夕食をすませ七時に町の公民館へと向かう。もうすでに多くの人が集まっている。テーブルの上にビールとコーヒの用意をしてあるのが目に入る。司会の方のあいさつが始まった。

「今日は。日本からの参加者もいます。日本の皆さんもどうぞ発言ください」

私たちは、まさかと思い、顔を見合わせた。本当なのだ。はじめは発言しにくいのはどこでも同じなのか。「発言がないことは、このまちがうまくいっているということですか」と司会者が促す。「今、財政が赤字ですが、どう考えているか」。五〇代と思える男性が質問した。ハメル市は社民党が与党で市長も社民党から選ばれている。社民党の代表の女性候補は「私たちの市はうまくいっている。今の福祉の質を守るためには増税しかない。あなたは質を落としたのですか」と答えた。議員は自分の仕事を持ちながら議会活動をする。政策と献身性が大事な資質なのだとわかる。八時すぎに休憩に入った。パウンドケーキ、クリームで飾られたケーキ、何種類ものクッキーが出される。私たちはこれで帰った。口のできなかつたケーキに心が残った。

(兵庫・K)

困った!! 私の月の賃金は総支給額で約二二万、年収にすると四〇〇万であります。ところが年間臨給がなくなってしまうと、年収は二六〇万円程度となってしまう。これは総収入なので、税金・その他が引かれると、手取り額は簡単に二〇〇万円ぐらいになってしまう。これじゃ一日八千円ぐらいのバイトと同等の賃金になってしまう。一家四人で暮らすにはちと低すぎる。どうしたものでしょう、実に困ったものです。

(I)

「政権党」だって!? これからもイキイキとした情報の提供を楽しみにしています。「政権党」に返り咲いた日本(二本)社会党が心配です。護憲と働く者の代表となる本当の社会党再生のためがんばります。

(栃木・Y)

編集部より 二つの「保守」の間で揺れ動く社会党。キャスティングボードを握っているのだから、もっと毅然とする必要がありますよね。

組織強化・拡大にがんばる 国鉄闘争の節目である六・二八集会(明治公園)、六・二九JR東日本株主総会を終え、七月末の全国大会を迎えます。闘争団のがんばりに学び、JR内で吹き荒れる合理化攻撃に仲間とともに立ち向かい、組織の強化・拡大にがんばります。

(国労・T)

編集部より 勝つためにもっとも必要なのは「妖怪」が住むといわれる東日本会社での組織拡大です。何がなんでも純増が大事。ご健闘を!

今年も半年すぎちゃった この半年もまたたく間に過ぎました。社会通信も拡大も送金も達成できませんでした。月一回の学習会もレジメの用意もできず、かろうじて連絡のメモや手紙を届けているところです。学習会の講義(資本論)も中味からすぐ脱線して雑談や情報に入ってしまう。それでも十人前後は集まっていますので、ここが出発点なんだといつも思い直しています。

(千葉・K)

編集部より 楽しい学習会にしましょうよ。